

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 皆様、15番、対政会の大浦孝司でございます。

本日最後ということでございますが、ひとつ、漁民の思い、このことを力強く行政へつないで、これをどうするか、比田勝市長、あなたがこの組織の中で、皆さんが安心して、納得するようなコウシンを、私は今回、特に考えていただきたい。かような思いで一般質問に臨みます。

それでは、一問一答を、時間がかかることに私はなるような気がいたしますから、読み上げの文章については、簡単明瞭に質問の内容を絞り込みたいと思います。

ただいまから、市政一般質問を行います。

藻場の自然増殖について、このことについて美津島町賀谷のNPO法人が、このカンドクの中で、藻場の、これは、ここに写真がありますように、自然に2022年から成長した藻であります。このことを3年間追ってきた内容について、私はこの場で報告したいと思います。これが1点目。

それと、私、全島を縦に西海岸・東海岸、常に回っております。その中で、西海岸の漁師さんが非常に暗い顔をしております。アカムツは5年前、かなりの水揚げをして潤ったことがございましたが、じわじわ、沖合の底引き、あるいは、まき網等によって、かなりの水揚げが落ち込んでおります。どうかすれば、恐らくこの朝鮮海峡、日本の海域の中でアカムツが激減してしまい、大きな、沿岸漁民にとって、心配して、これをどうかしていただきたいという思いがございます。

この2点について、市長の、まず所見を聞きたいと思います。その後、一問一答で具体的にやり取りをしてみたい。かように思っております。どうかよろしくお願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

初めに、藻場の自然増殖についてでございます。

議員御指摘のとおり、対馬沿岸の藻場は、近年の海水温の長期的な上昇と、それに伴う食害生物の増加により、アラメ・カジメなどの大型海藻が消失する磯焼けの拡大が進み、危機的な状況にあると認識しており、これは本市の水産業にとって極めて深刻な問題であります。

御質問の、最近確認されている藻場の状況について市が把握している情報では、限られた海域においてでございますが、御指摘のとおり、在来種に加え南方系の海藻類の繁殖が確認されていると聞き及んでいるところでございます。

特に、鴨居瀬地区においては、今年度、天然のヒジキが乾燥物で約250キログラムの収穫があったとの報告を受けており、これは環境条件が局所的に好転した非常に明るい兆候であります。

また、三浦湾地区においても、近年、南方系の海藻種でありますキレバモクの群生が広がるな

ど、僅かながらではありますが藻場の回復傾向が見受けられております。

さらに、この回復した海藻群落の中におきまして、水産資源として重要なイカの産卵も確認されておりまして、海の生態系が豊かさを取り戻しつつある兆候として、大変心強く感じているところでございます。

この藻場回復の要因といたしましては、同地区の漁業関係者の皆様が長年にわたり熱心に取り組んでこられた、海藻を食害する食植性魚類やウニの駆除活動の成果も大きく寄与しているものと考えているところでございます。

他の海域でも、この南方系の海藻や小型の褐藻類が増えてきている海域があることも報告されています。

これは、自然環境の変化に対する適応の動きと捉えられ、これらの藻類が、かつての豊穡な藻場を完全に代替できるものではありませんが、磯根資源でありますサザエやアワビの餌や稚魚の成育場になり得ると考えられております。

市といたしましては、このような自然増殖の動向を引き続きモニタリングしつつ、人工的な藻場造成や、磯焼けの原因となる食害生物の駆除を継続することで、対馬の多様な藻場を回復させるための対策を継続してまいります。

次に、アカムツの沿岸操業の実態についてでございますが、対馬周辺海域で魚獲されるアカムツは、その脂の乗りの良さと品質の高さから、市場において極めて高い評価を得ております。

特に、対馬で魚獲されるブランドアカムツは、本市の水産物を象徴する宝であり、地域経済を牽引する重要な魚種であると認識しております。

しかしながら、近年の海洋環境の変化や魚獲圧の高まりにより、その資源量は予断を許さない状況にあります。

市における現状の把握についてでございますが、各漁業協同組合からの水揚げデータに加え、日々操業されている漁業者皆様からの情報により、アカムツの水揚げが近年著しく減少している実態を、極めて深刻な事態として認識しております。

特に、かつてのような良型が減少し、漁場環境が厳しさを増している現状は、漁家経営の根幹を揺るがしかねない重大な問題であると受け止めております。

この対策につきまして、まず強調しなければならないのは、本市の沿岸漁業者の皆様の大変な努力であります。

対馬の漁業者の皆様は、将来の資源を守るため、操業の自粛など痛みを伴う資源管理活動に、自主的かつ懸命に取り組んでこられました。市といたしましては、こうした沿岸漁業者の取組を今後も尊重し、継続的な支援を行ってまいります。

しかしながら、漁類資源は、沿岸漁業者の努力だけで全て解決できるものではございません。

特に、沖合域で操業を行う底引き網漁業の影響については、多くの沿岸漁業者から懸念の声が寄せられていることも承知しております。

したがって、今後は資源保護の輪を、沿岸だけでなく沖合漁業にも広げていくことが不可欠であり、対馬市漁業協同組合長会や、広域的な漁業調整権限を持つ水産庁や、長崎県等の関係機関と緊密に連携を図ってまいります。

その上で、対馬周辺海域を利用する沖合底引き網漁業者の方々に対しても、本市の沿岸漁業者が行っている資源管理の実情を伝え、資源保護への理解と協力を継続していく考えであります。

双方が納得できるルールづくりや協力体制を築くことは容易ではありませんが、対馬の宝でありますアカムツを枯渇させるわけにはまいりません。市といたしましては、県や関係団体と協力し、沿岸漁業と沖合漁業が共存できるよう、持続的に発展できる資源管理体制の構築に向けて、粘り強く働きかけを行ってまいります。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） どうもありがとうございました。

ここの前にある海中の写真でございます。この写真の実績は、美津島町の賀谷沿岸に、2022年から、そういうふうな藻場が僅かながら発生し、それが広がって今にあるということでございます。

それで、これはキレバモクという品種が南方系ということで確認を取っております。このことを常に管理しておる、モニタリングをやっておられる組織を紹介いたします。NPO法人 対馬自然共生ネットワーク、賀谷の鎌田衛様でございます。

それで、話をずーっと聞いていったら、この春藻場という言葉が出てきます。春藻場。2、3月に芽が吹いて、それが夏を過ぎると、残念ながら全て枯れていくという意味です。ですから、半年の寿命ということになります。それが春藻場の特徴で、全て対馬の海域にこれが繁茂すれば、全て解決することではないようです。ここのところを市長、少し注意して聞いてほしいと思うんですが。

私は、過去にこういうふうなことを言うた覚えがあります。令和4年9月20日の所管事務調査の折に、私は産業関係の委員会に所属しておりまして、対馬栽培漁業振興公社の経営現状ということで説明を聞いたんですが、その中で、もう既に藻が壊滅しておるといふような情報がある時期やったんです。

そのときに、アワビの放流事業をやっておるといふふうなことを聞く中で、「藻が育成しておらない場所にアワビを放流してどうなるの」。このような非常に初歩的な疑問を思いまして質問したわけですが、補助事業の実施の観点からやむを得んことがあったのは後で分かったんですけ

れども。

そのときに、対馬栽培漁業振興公社の目的は魚介類の、要は、そういうふうな稚魚・稚貝を放流する技術の世界であって、藻を栽培するというようなことにはないというお話を賜りまして。しかし、今このことに力を入れん限り、稚貝もあるものかというふうなことで、私はそういう強い意見を述べたわけですが、そういうふうにはなっておらないよというふうなことで、私はそうではないだろうと再三にわたって食いついたわけですが。

最近になって、対馬栽培漁業振興公社の在り方も変化しておるということを耳にしましたが、市長、その辺の今の取組を、ちょっと説明をしてください。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに対馬栽培漁業振興公社は、当初の目的がアワビ・サザエ等の貝類の生産そして放流がメインの目的でございます。そのほかに収益事業として、対馬の真珠の稚貝等も生産をしているところでございますが、近年は、議員おっしゃられるように、この対馬の磯焼け現象がもう激しいということで、この対馬栽培漁業振興公社のほうにおきましても、県のほうから、この藻場の幼体っていいですかね、そういったところを育てて、それをブロックに貼り付けて、将来的には藻場を広げていこうという、今、取組をされておりますけれども、そのための、その藻場、ブロックに貼り付ける幼体を対馬栽培漁業振興公社のほうでも生産をしているところでございます。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 県の依頼を受けることを含めて、この問題はどんどん前に進めるべきだと思うんです。藻さえ作れば、アワビ、サザエ、全てのことが解決するんです。

ところが、その中の、県が推奨しておる試験的な藻の名称は、何という藻を栽培しているんですか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私が聞いているところでは、今、議員おっしゃられたようなキレバモクという話を聞いておりますけれども、そこにつきましては担当部長のほうから、また詳しく答えさせます。

○議長（春田 新一君） 農林水産部長、平川純也君。

○農林水産部長（平川 純也君） お答えいたします。

県からの発注によります藻場増殖プレートについてでございますけれども、これは議員御指摘のように、まず、春藻場としてキレバモク、それからマメタワラ、ヨレモク等、これをプレート約300枚を年間生産するように委託を受けているところでございます。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 私は、それはそれで今まで取り組んだことを無駄とは思っておりません。しかし、現実に沿岸の一部において、キレバモク、または、これは裏にありますがイソモク、これ、賀谷の春藻場でございますね。

先ほど言いますように、春の藻というのが9月以降、減びていく。そして、次の春に芽を出して再生すると。このことは、貝類にとっては、餌が不足する世界に生きていけるだろうか。これは、そう思うのは当たり前だと思います。

しかし、壊滅したという意味は、高水温のどうかしたら30度ぐらいの熱が、その海の20メートル前後ではあるそうですよ。そういう世界ですから、もう南方に近いじゃないですか。

だから、今の春藻場、これは南方系で育ちますよということで立証がされて、無駄なことじゃないが、半分はこの海の中に育たない、枯れていく。そう思うときに、1年中生息する藻、これを追うていくのが行政の試験機関の、私は最大の今、対馬の中で求めないかんことであると。その言葉は、春夏秋冬、これは四季です。4つの季節の四季。四季藻場という言葉になるそうです。

これを私は、長崎県はもとより、対馬市もこの問題に総力を挙げて方向を絞っていただきたいと思います。四季藻場の形成を、この東海岸・西海岸に定着させるだけの種苗を、あらゆる地域から種苗を確保して、栽培漁業センターの中で県とスクラム組んで、私は、それをこれからやっていただきたいと思います。

何回も言いますが、年間を通じて藻が繁茂せん限りアワビの成長もないでしょう。そういう意味で、そういう方向の取組を県とも協議しながら取り組んでいただきたいと思います。このことをお願いしたいのが、今日の話の一つの大きなポイントだと思っております。

それともう一つは、春藻場の中でアワビがどれだけ生きていくか。これをやはりやることも、私は現段階では必要だと思います。ですから、3月、4月の頃に放流することを、単独で構想で私は、この中のどこかに浅瀬でいいですから、これを活躍させることで1年間もてるのか、これを試験的に実施していただきたいと思います。できれば、来年度の予算編成の中で、そういうふうなことを取り組む。非常に、もしそれでアワビが育てれば、私はそれで一つの方向性が、じわじわ広がると思います。そして、あとは四季藻場の形成。これに全力を投入していただきたいと思います。

藻場のことは、私はこのことが、今申し上げたことが、全てのことだと思っております。ほかには、ちょっとチェックします。

そういうふうなことになりますので、いろいろ対馬海域の中で、沿岸の中で、そういう自然増殖の箇所を調査されることも必要ですから、漁民と連携を取って、水産課の中で部長さん、これをひとつ把握されて、対馬に自然増殖した春藻場がどれだけあるか、これ、また数字的に把握をお願いしたい。かように思います。

ほかにもございますが、時間があまりございませんので、アカムツに移りたいと思います。

先ほど、ちょっと私、資料を読み上げりゃあよかったと思ったんですが、平成15年に、丸々、磯焼けが幾らか進む中でも、まだまだやってきた頃のことなんですが、貝類それから採藻含めて10億円の売上げが実績として上がっております。この10億円を取り戻すために、事を進めるというふうな心意気でございます。

農林水産部長、このサザエやアワビ、それから藻類の売上げがでございます。そして、この数量においては1,152万トンという大きな数字が上がっておりますが、このことについて、部長、その過去の取扱いと、最終的な、令和6年が実績ですが、この数字に令和6年の数字をつかんでおりますか。その落ち込んでいった数字の内容を。これをもし分かれば、それを最後に報告もしてください。

○議長（春田 新一君） 農林水産部長、平川純也君。

○農林水産部長（平川 純也君） お答えいたします。

サザエ、アワビを主体としました貝類の水揚げでございますけれども、令和5年の実績ではございますが、全体で、アワビが0.6トン、それから、サザエが317トンとなっております。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 令和5年度ですが、令和6年の昨年は、これは物すごくかなり激減した数、それ以下になっていると思います。それだけのスタートを切り直さないかんという思いで取組を、ひとつ水産課の方については、また力を入れていただきたい。

次に、アカムツのことに進みたいと思います。

現在、アカムツの、はえ縄の対馬での船団の構成でございますが、上対馬町、比田勝港、泉港、約10隻。上県町、鹿見、久原、伊奈、御園、仁田、40隻。豊玉町、水崎、13隻。巖原町、小茂田、8隻。71隻の操業が現在っております。これは、漁民の方から直接聞いておりますので、漁協と統一の見解ではございませんが、あくまでも聞き取りでした話でありますから、そういうことを御承知ください。

漁獲実績、これはちょっとメモしとってください。5年前の令和2年は、一つの基準になると思いますので、このことについて申し上げます。

合計で228トン、令和3年が222トン、令和4年が203トン。ところが、ここからぐっと下がってきまして、令和5年が100トン、令和6年が61トン。これは、物すごいことが起きているということですよ。

市況ですが、これは非常につかみにくいです。販売する先が東京豊洲市場、あるいは福井市、あるいは金沢方面とか、物すごくその辺の把握はしにくいですが、現在の価格は幾らすとですかと。1キログラム1万円を超えていますよ。これは過去にないでしょう、魚の値段が1キログラム1万円。1キログラムですよ。マグロだってそんな値段じゃない。こんなことが起きている

るんですよ。これはこのままでいけば、朝鮮海峡、対馬海域の中でアカムツはなくなりますよ、そのままにしておれば。

それで、対馬の漁師さんは、はえ縄ですから、6マイル手前で操業しています。それから、7マイル沖合が底引きというふうになっております。

しかし、底引きの問題だけじゃない話がございます、その他の操業の実績において、アカムツが底引きと足した場合に相当な水揚げが進んでいるというふうなことを言葉では聞いております。その方法はどうかというのは、私は申し上げられませんが、間違いなくアカムツを狙うて対馬海域に大型船が寄っておりますよ。その数をチェックしたら、底引き24隻ですよ。

農林水産部長、まき網のその海域の操業、船団の把握はしておりますか。知っておれば教えてください。

○議長（春田 新一君） 農林水産部長、平川純也君。

○農林水産部長（平川 純也君） お答えいたします。

大臣許可によります大中型まき網漁業についてでございますけれども、これは、対馬近海で3つの海区に分かれておるような状況もございまして、混在をしております。

ただ、今日は詳細な資料を持ち合わせておりませんので、また後ほど報告させていただければと思います。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 市長に進言しておきますが、激減しておる理由は、底引きだけじゃなく、まき網もそういうふうな実績があつておるということを漁民の方が申されておりますので、そこを含めた中で話合いというのは、このままいけば、アカムツはほとんどなくなっていく方向にある思いです。ですから、皆さんは行っても釣れないから、もう全く以前と違う在り方で、望みが薄い考えにあります。

ここで市長、こういうふうな場合、資源を管理調整することでの、先ほどの発言の中で私、このことを今から、漁民をまとめて、漁協をまとめてその方向づけを、話合いをする必要があると見とるんですが、市長の意見を伺いたいと思います。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、先ほども冒頭、答弁いたしましたように、このことについては危機感を持っているところでございますので、漁協の組合長会を中心にしていただいて、関係漁業者との協議は持ちたいと思っておりますし、ただ、今、話がありましたけど、このまき網漁業等は大臣許可になっておりますので、このところが、どのような形ですれば是正、改善ができるものかも併せて研究しながら取り組んでいければなというふうに思っておりますので、また関係者の皆様と、ちょっとそこら辺は相談をさせていただきたいと思っております。

以上であります。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 農林水産部長にお願いいたします。私の、先ほど申し上げました5年間の概略の、つかんだ実績なんですけど、正式に関係漁協に照会して、その取り組んできた船の、あるいは人数、どれだけの方がその漁に参加されとったのか。そして、幾ら取って、幾ら揚げたかというのを、やはり10年ぐらい遡って資料として持たないと、国や関係団体との協議に通用しませんので、そういうことを、ひとつ早急にまとめていただけないでしょうか。そうしないと、全体の話の基本がそこから来ますので。

そして、先ほど言いますように、農林水産部長が、関係する漁協組合長の、あるいは操業の代表の方々の意見を聞いて、どうしたらいいかというふうなことを話し合ってください。漁民と行政と組んでそういうふうなことをする時期に来ております。

これは、今の操業だけじゃなく、長期の対馬の宝の魚ですよ。これを逃がす、逃がさんは、今にかかっております。ひよっとすれば、新しい方がこの種の魚に興味を持ち、中型の底引きをやってみようというふうな方もおるかもしれん。私は、目の前で大きな資源を取り過ぎないように、そして、対馬漁民がもっと収益になるように、声を描いてほしい。

水産部長、そういうようなことで、ひとつ統計資料を固めていただきたい。いいでしょうか。ちょっと御意見があれば。

○議長（春田 新一君） 農林水産部長、平川純也君。

○農林水産部長（平川 純也君） お答えいたします。

ただいま依頼いただきました、過去10年間の水揚げ等、それから、隻数等の資料につきましては、今現在、令和2年以降の実績はまとめておりますけれども、もう少し拡大をとるところでございますので、これは後ほど、また報告をさせていただきたいと思っております。

それから、今後の資源保護等についてでございますけれども、今現在、先ほど市長も申されましたように、対馬海区における、対馬市漁業協同組合長会と、それから、関係します沖合底引き漁業者の皆様で、これは協定が取り交わされております。その内容につきましては、やっぱり相手方があるものですから、なかなかここでは詳細は控えさせていただきたいと思っておりますけれども、その操業自粛の範囲であるとか操業自粛の期間、こういったものについては、しっかり話をされているようでございますし、市、県とも、そこにつきましては、例えば市の場合、オブザーバーとして、その都度会議に入っておりますので、その辺については、しっかり連携を取りながら取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 市長にお尋ねします。取り過ぎの場合には必ず絶滅していくわ

けですから、それに対する保護区の考え、一定の期間を保護するとか。過去に、たしか前財部市長がこのことについて、一部そんな構想を持つとった頃があったでしょうが、このことについて何か思いがありますか。保護区の設定。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに、前市長の財部市長時代に、この対馬の海洋保護区ということで対馬の周りを、たしか10海里まではそういった保護区として魚介類の保護をしたいということで、長崎県や水産庁のほうにも話をしてまいりましたけれども、なかなかその話は受け入れていただけなかったということで、今現在まだまだ、今度は海洋保護区という名前を少し変えまして、資源保護には取り組んでいるところではございますけれども、今後の一つの宿題で、まだあろうかなというふうには思っております。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） いろいろ言っても、漁業関係者と、それと行政の連携によって、県と、そして水産庁と、そういう世界で要望を進めていくことが出てくるわけですが。

私は、対馬市長が、その残りの任期の中で、この問題に力を入れて取り組んでいただきたい。それを私は期待しておりますが、市長、その辺の思いを発言してください。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私自身その思いはあるんですけども、ただ、この資源保護関係では、今回の議会の中でもTAC関係の質問もございましたけれども、そのようなことで、これがTACの対象魚種になれば、また対馬のほうでも、逆に漁獲が厳しくなるおそれもあるなということで心配もしております。

しかしながら、私も今後もこのことにつきましては力強く取り組んでまいりたいとは考えておりますけれども、大変難しい問題であるということで、なかなか一朝一夕では、その実現に向けては困難な事業であるというふうに認識しているところでございます。

○議長（春田 新一君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 私は素人です。一般的に言えば、あれだけのイカを操業自粛してください、イカの対馬ですよ。それを皆様しぶしぶ。この間、その意見を言っていましたよ。そして、目の前のアカムツを大型船が取ってしまう。

やっぱりね、そういうふうなことで事が済まされない世界もございますので、粘り強く、漁民の思いを国に、あるいは国会議員に話をされて、何とかこのことを今より随分改善することになるように努めましょうよ。これが政治です。行政です。

これを期待いたしまして、私は、僅か4分ございますが、一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

---

○議長（春田 新一君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

以上で、本日の議事日程は全て終了しました。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午前11時57分散会

---